

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 90 分

## 解答形式

I～IVはマーク式で、Vのみ記述式

## 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

I～IIIの読解問題の過去5年の総語数は「2,110→2,248→2,112→2,098→2,056」で推移している。

## 出題の特徴や昨年との変更点

大問数・設問数・設問構成ともに、18年連続して同じパターンを踏襲している。大問Vの要約問題は、2017年度以降、あらかじめ与えられた書き出し部分に4～10語を加え、要約文を完成させる形式が続いている。

## &lt;大問分析&gt;

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	読解総合	(A)「手術での麻酔の導入」(273 words) (B)「週7日という周期」(266 words)	空所補充問題 品詞や構文だけでなく、文脈にも注意して解いていく必要がある。選択肢には難単語も含まれるが、消去法で対応できるようになっている。	標準
II	読解総合	(A)「機械学習のモデル」(185 words) (B)「ロヒンギャへの迫害」(276 words) (C)「怪物研究における場所の重要性」(503 words)	内容一致問題、内容不一致問題 パラグラフごとの要点を整理しながら読み進めていく力が問われているが、英文内容はわかりやすく、該当箇所も見つけやすいので、選択肢の真偽の判定は比較的容易である。19はタイトルを選ばせる設問(dはInternational Politicsが不適切)で、24も文章の中核をなす内容を選ばせる設問になっている。	標準
III	読解総合	「言葉の標準化による言語や文化の統一」(553 words)	空所への文補充問題 具体例として挙げられている言葉に加えて、時代や国名といった固有名詞も空所を埋めるヒントになる。	やや難
IV	その他	会話文 AIについての考えをめぐる二人の会話	空所補充問題 7つの空所に対して選択肢は13と多いが、空所に入れるべき品詞や前後の文脈に着目することで、検討すべき選択肢は容易に絞れる。	やや易
V	英作文	「芸術作品の鑑賞と知識の違い」(245 words)	1つのパラグラフからなる文章の一文要約 要約の手がかりとなるキーワードは見つけやすいが、10語以内にまとめるのに苦勞する。	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

長文読解問題では、話の展開を理解したうえで個々の設問の解答のカギになる記述を発見することが重要になる。設問の解答を導く根拠を探しながら英文を読む習慣をつけるとよい。空所補充の問題では、文脈に加えて文法・語法・語彙の知識も重要になるため、そのような知識を十分に定着させておく必要がある。一文要約の問題では、英文の要旨を把握する力が試されるので、日頃から論理展開を意識した読み方を心がけ、自分の言葉で (in your own words) 簡潔にまとめる練習を積んでいくのがよいだろう。